

演習 II

科目ナンバリング SEM-302
必修 2単位

1. 授業の概要(ねらい)

取締役会の「内部統制」システム構築責任は、会社法第362条(取締役会の権限等)において明示されている。そして、この「内部統制」は、リスクベースの経営管理手法としても捉えることができる。この演習の秋期では、有価証券報告書、コーポレートガバナンス報告書、事業報告書等の主要開示資料を教材とした事例研究、グループ課題と個人課題の報告、およびディスカッションを通じて「内部統制」の理解を深める。

2. 授業の到達目標

「内部統制」に関わる理論と実務を体系的に把握すると同時に、プレゼンテーションとディスカッションの手法を習得する。

3. 成績評価の方法および基準

テキスト等の要約報告書(30%)、企業検討表(40%)、および授業中のディスカッションへの貢献度(30%)を総合的に評価する。尚、5回を超えて欠席した者は成績評価の対象外とする。

4. 教科書・参考文献

教科書

風間 信隆著 『よくわかるコーポレート・ガバナンス』2019年

ミネルヴァ書房

齋藤・蟹江 『現代の内部監査』2017年 放送大学教育振興会

参考文献

町田 祥弘著 『日経文庫 内部統制の知識<第3版> 新書』2015年 日本経済新聞出版社

堀江 貞之著 『コーポレートガバナンス・コード(日経文庫) 新書』2015年 日本経済新聞出版社

5. 準備学修の内容

毎回の具体的な準備学修内容は講義ノートおよび課題として事前にLMSに掲載するので、受講するまでに教科書と講義ノートを参考にして課題を作成しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

LMSを有効活用するため、パソコン及びインターネットの環境を整備しておくこと。おもしろおかしく(Joy & Fun)学習できるように、教員と共に工夫しよう。また、演習では、学生相互の人間関係も重要である。お互いに切磋琢磨する中で、生涯の友を得るように努めること。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:ゼミ活動の進め方。第1回講義ノート兼課題「第1部 株式会社とコーポレート・ガバナンス論 1 株式会社とは何か」
事例研究課題1「ソリューション事業3社の企業検討表の作成」
- 【第2回】 第2回講義ノート兼課題「2 巨大株式会社と会社機関構造(日本・米国・ドイツ) 3 株式会社と経営者支配」
- 【第3回】 第3回講義ノート兼課題「4 経済の金融化と新制度派経済学 5 マルチステークホルダー・アプローチ」
- 【第4回】 第4回講義ノート兼課題「第2部 日本におけるコーポレート・ガバナンスの動向と課題 6 戦後の経済発展とインサイダー型ガバナンス」
事例研究課題2「有価証券報告書に基づく財務分析(ソリューション事業3社)」
- 【第5回】 第5回講義ノート兼課題「7 企業不祥事とコーポレート・ガバナンス 8 外部監視とコーポレート・ガバナンス」
- 【第6回】 第6回講義ノート兼課題「9 経営者報酬とコーポレート・ガバナンス 10 同族企業とコーポレート・ガバナンス」
- 【第7回】 第7回講義ノート兼課題「第3部 コーポレート・ガバナンスの国際比較 11 米国のコーポレート・ガバナンスの動向と課題」
事例研究課題3「コーポレート・ガバナンス報告書に基づく機関設計比較(ソリューション事業3社)」
- 【第8回】 第8回講義ノート兼課題「12 ドイツのコーポレート・ガバナンスの動向と課題 13 英国のコーポレート・ガバナンスの動向」
- 【第9回】 第9回講義ノート兼課題「第4部 資本市場とコーポレート・ガバナンス 17 コーポレート・ガバナンスと資本コスト」
事例研究課題4「バリューコマース(株)の企業検討表の再作成」
- 【第10回】 第10回講義ノート兼課題「18 コーポレート・ガバナンスと事業投資 19 コーポレート・ガバナンスと資本政策」
- 【第11回】 事例研究課題学内発表会
- 【第12回】 外部講師招聘:バリューコマース(株)社外取締役「バリューコマース(株)のコーポレートガバナンスについて」
- 【第13回】 事例研究1 東洋電機製造(株)の企業検討表の作成
- 【第14回】 事例研究2 フランスベッド(株)の企業検討表の作成
- 【第15回】 事例研究3 日本電気(株)の企業検討表の作成